

多文化共生のまちづくりをめざして ～外国人と日本人の共生～

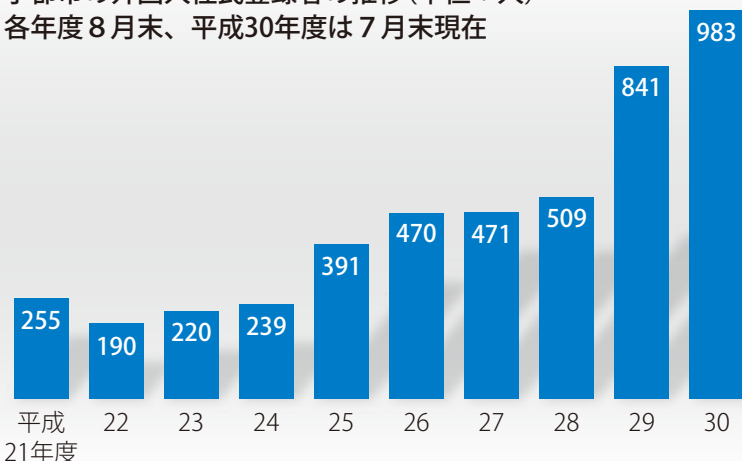


小郡市で暮らす外国人

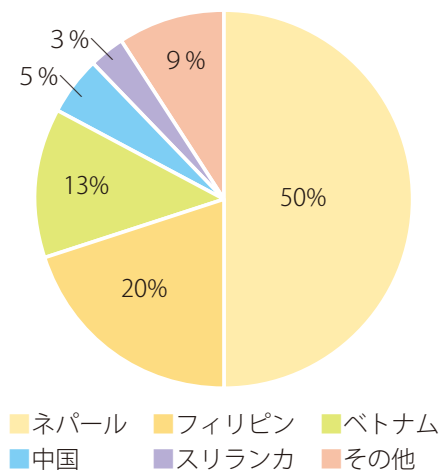
小郡市には留学や技能実習などの目的で、26か国、983人(平成30年7月末現在)の外国人が暮らしています。外国人住民の数は年々増え、国籍別ではネパールがもっとも多く、次いでフィリピン、ベトナムとなっています。

全国的にも在留外国人は増加しており、各地で多文化共生の取組が進められています。多文化共生とは、国籍や民族などの異なる文化や言語をもつ人々が、お互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築きともに生きていくことです。国際交流の取組や多文化共生に関わる市民、実際に生活する外国人の声を通して多文化共生について考えてみましょう。

小郡市の外国人住民登録者の推移(単位：人)
各年度8月末、平成30年度は7月末現在



小郡市の外国人住民登録者の国籍割合
(平成30年7月末現在)



留学生に聞いてみました！



Please tell me !

日本学生支援機構が行う調査では、平成29年5月現在の外国人留学生は約27万人(対前年比11.6%増)。小郡で暮らす外国人は、69%が留学、17%が技能実習目的で、多くの外国人が日本、そして小郡市に技術や知識を学びに来ていることがわかります。市の日本語学校に通う留学生にお話を伺いました。



学校生活、そして将来は？

杏林国際語学院在学
ゴルサイネ スマンさん
(ネパール出身、21歳)

Q日本に来たきっかけは？

安全で、勉強環境もとてもいいと思ったから。

Q日本に来て驚いたことは？

食べ物ですね。ネパールでは辛いものを好みますが、日本は甘いものが好きな人が多いです。

Q小郡に住んでみてどうですか？

静かできれいで住みやすい。日本に来てすぐは、分からないことを地域の人が優しく親切に教えてくれたことが印象的です。

Q学校生活で思い出に残っていることは？

ケアハウスで歌を歌ったり、いろんな話をしたことです。学校で練習した「人生いろいろ」や「リンゴの唄」を歌い、とても喜ばれました。

Q将来の夢は？

卒業後は大阪の大学で経営の勉強をし、日本の電気機器メーカーで仕事を経験したら、母国のネパールで会社をつくるのが夢です。



学校生活、そして将来は？

NILS在学
アンドレアスさん
(インドネシア出身、29歳)

Q日本に来たきっかけは？

子どもの頃から日本の漫画が好きで、日本に興味がありました。高校の時に日本の音楽や文学にも興味をもち、インドネシアの大学で都市建築を学んだ後、ドイツ留学を経て来日しました。

Q小郡に住んでみてどうですか？

安全で買い物も便利。住みやすいと思います。

Q日本人と交流した印象は？

アルバイト先の仲間やお店に来る日本人のお客さんとよく話しますが、みんな親切ですね。

Q学校生活で思い出に残っていることは？

花見や花火大会など、いろいろなイベントに参加したこと。日本の小学生たちと行った英語キャンプも思い出に残っています。

Q卒業後は？

来年4月から、下水処理技術の会社に就職する予定です。日本に住み続けたいと思っています。

杏林国際語学院

留学生一人ひとりの立場に立った教育ができる日本語教育をめざし、日本語教師が立ち上げた日本語学校。“一生の友”として国を超えた友情を育む方針の下、学生は教職員とともに笑顔にあふれている。



小郡市小郡812-1
☎73-0902

学生総数180人(平成30年10月1日現在)

NILS(ニルス)

2003年設立。多くの国から留学生を受け入れ、ニーズに合わせたプログラムで日本語指導を実施。日本での生活を学ぶため、地域との関わりも大事にし、地元のイベントにも積極的に参加している。



小郡市小郡760-5
☎41-2611

学生総数335人(平成30年10月1日現在)

地域の国際交流の取組



おごおり国際交流協会
会長 牟田 慎一郎さん

外国人が身近にいても、私たちは日本以外の国を遠く感じがちです。まずは、自分たちが国際人になることが大事だと思います。ぜひ積極的にイベントなどに参加して、一緒に国際意識を高めていただきたいと思います。

また、在住外国人には、地域の方と交流する機会を大事にして、小郡で安心して生活してもらえたら嬉しいです。



ちょっと教えて！
おごおり国際交流協会

交流会やイベントの開催を通じて、市民の国際理解の促進や国際意識の育成に取り組む民間団体。入会申込は、協会事務局(市秘書広報課)で随時受付、会費不要。

〈主な行事〉

- ・総会、交流会
- ・フレンドシップ交流会
- ・世界の家庭料理体験教室、講座
- ・日本語教室
- ・市民まつり出店
- ・視察研修

おごおり国際交流協会「外国人指導者派遣事業」を紹介します！

子どもたちの国際理解を深める事業への指導者派遣時の補助制度です。

【内容】

外国人指導者の派遣、紹介・あっせん

【派遣先】

- ・幼稚園、小中学校などが行う学習活動
- ・地域で行われる行事など

【対象事業】

- ・申請者が自ら企画・実行し実施期間とその内容が具体化しているもの
- ・長期にわたる事業でないもの

※「外国人指導者派遣事業」は、株式会社田中三次郎商店からいただいた寄附金をもとに行っています



韓国について学ぶ授業風景



御原小学校 吉岡校長先生から

質問の後「チヂミづくり」をして、韓国とのすてきな出会い「ほんもの体験」ができました。



小郡の留学生をサポートする キーパーソン！

ハッピーカレーハウス店長
ビバス アバス プロタブさん
(ネパール出身、38歳)

Qお店をはじめたきっかけは？

ネパールの大学で経営を勉強している時、内戦で増えた孤児を支援するボランティアに参加していました。それがきっかけで、福祉を学ぼうと来日を決意。当時は外国人が福祉関係の仕事に就くことは難しく、レストランをしながらボランティアをすることにしました。

Q地域とはどんな関わりをしていますか？

子どもの小学校入学をきっかけに、地域のイベントに参加するようになりました。そして小郡に来て、親代わりのように支援してくれた日本人がいます。私もごみの分別や、自転車のマナーを留学生に教え、また相談に乗ったりもしています。

Q日本人と外国人の理想の関係は？

日本に来たばかりのとき、親切に接してくれることをとても嬉しく思いました。それが「頑張ろう」と思える原動力です。同じ地域に住む人同士、お互いに住みやすいまちになるよう、努力していけたらいいなと思います。



国際理解講座(世界の家庭料理教室・講演会)

日本で暮らす外国人を講師に迎え、出身国の家庭料理教室と、文化などを紹介する講演会を開催しています。年に3回、テーマの国は異なります。

10月14日(日)、
スリランカ料理
体験教室のようす



多文化共生の まちづくりの取組

外国人のための日本語教室

毎週火曜(午後7時～8時30分)に市役所北別館で開催。3期(4～7月、9～12月、1～3月)、受講無料(教材費は実費負担)、随時受付中です。

3つのクラスに
分かれて勉強します



暮らしの便利帳(多文化共生ガイドブック)

英語、ネパール語の2か国語で、暮らしに役立つ情報をまとめた「暮らしの便利帳(多文化共生ガイドブック)」を配布しています。日本語の記載もあるため、日本人が外国人に説明するときにも利用できます。

市役所で
配布中!



フレンドシップ交流会(国際文化交流会)

年に1回、小郡および近郊に住む外国人を招いて小郡ロータリークラブ、おごおり国際交流協会、小郡市の共催で交流会を行っています。外国人によるスピーチや、日本と外国の相互の文化紹介、アトラクションを通して、交流を図っています。

2017年は
約120人が参加!



異なる文化や言葉をもつ私たちが、支え合い、助け合って暮らしていくためには、お互いに同じところ・違うところを理解し合える関係を持つことも重要になります。多文化共生の取組は、同じ地域で生活する私たちにとって、地域福祉や防犯、防災などを考えるうえでも欠かせないものです。あいさつなど、身近なコミュニケーションから始めてみましょう。

使ってみよう!「やさしい日本語」

「やさしい日本語」は、普通の日本語より簡単で、外国人にも分かりやすいように配慮した日本語のこと。子どもや高齢者、障がいのある人にも分かりやすく、日常はもちろん、翻訳する時間のない緊急時にも有効です。

〈言い換え例〉

・「避難する」→「逃げる」 ・「危険」→「危ない」 ・「土足厳禁」→「くつを脱ぎましょう」

※語彙の目安：日本語能力試験出題基準3級、4級程度(小学校2、3年生程度)

問秘書広報課男女共同参画推進室 ☎72-2111

